

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	152	科目名	化学物質総合評価学2		サブネーム	リスク評価2		
共催機関名	住友化学	レベル	中級		講義枠	土曜後半	講義時間	4コマ連続(10:00~、11:50~、14:00~、15:40~)
科目概要	農薬のヒトと環境へのリスクの評価に用いられる各種評価手法研究の現状、関連する各国の規制動向および現状の課題に関して概説する。具体的には、農薬の役割から始まり、日米欧の農薬に係わる法律と農薬規制の現状、農薬の曝露量評価、哺乳動物並びに環境生物に対する毒性、それらに必要な試験項目と現状の課題、および持続可能な農業体系について解説する。							

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属	
哺乳動物毒性序論	1 農薬のヒト健康に及ぼす影響評価のための全体像と基礎知識	農薬のヒト健康に及ぼす影響評価のための講義の進め方について紹介する。また、農薬の基礎知識、農薬の安全性(使用者安全と消費者安全)、日米欧の農薬に係わる法律と農薬規制(ガイドライン/ガイダンス)の現状について解説する。	11月26日	2号館201	奥野 泰由	住友化学	
哺乳動物毒性	2 農薬の哺乳動物毒性試験の概要	毒性試験の概要(施設、GLP、被験物質、費用、使用動物、動物愛護他)について解説する。また、日米欧の農薬登録で要求される各種毒性試験の種類と試験方法について解説する。	11月26日				
	3 農薬の急性毒性、変異原性、刺激性、皮膚アレルギー性、免疫毒性、哺乳動物代謝	農薬の急性毒性、変異原性、刺激性、皮膚アレルギー性、免疫毒性、哺乳動物代謝の各種試験法と評価上の問題点について解説する。また、変異原性と発癌性の相関、皮膚アレルギー性の試験法の選択について解説する。	11月26日				
	4 農薬の亜急性(経口、吸入)、慢性毒性、発癌性	農薬の亜急性、慢性毒性、発癌性の各種試験法と評価上の問題点について解説する。また、各種臓器毒性、慢性毒性試験の投与量設定、発癌性評価上の問題点、発癌性の国際的評価について解説する。	11月26日				
	5 農薬の催奇性、繁殖毒性、神経毒性、発達神経、免疫毒性	農薬の催奇性、繁殖毒性、神経毒性、発達神経、免疫毒性の各種試験法と評価上の問題点について解説する。また、問題となる毒性のクライテリア、評価上の問題点と最近の話題について解説する。	12月3日	2号館101			
	6 化学物質の内分泌攪乱作用・神経毒性問題の現状と課題	化学物質の内分泌攪乱作用・神経毒性の試験法確立とその背景について解説する。具体的には、内分泌攪乱作用問題とは何か、また内分泌攪乱作用のスクリーニング法と確定試験法について解説する。	12月3日				
	7 化学物質の内分泌攪乱作用・神経毒性問題の現状と課題	昨今の化学物質神経毒性問題とは何か、また、各種神経毒性の検出法と評価上の問題点について解説する。	12月3日				
	8 農薬のリスクアセスメントとリスクコミュニケーション	農薬の使用者に対する安全性、残留農薬に係わる安全性、農薬のリスクコミュニケーションについて解説する。	12月3日				
環境影響評価序論	9 農薬の環境に及ぼす影響評価のための全体像と基礎知識	農薬の環境に及ぼす影響評価のための講義の進め方について紹介する。また、日本の農業の基礎知識や、農薬の役割と登録制度について解説する。	12月10日	1号館301	瀧本 善之	住化テクノサービス 環境科学センター	
環境影響評価	10 曝露評価のための農薬の環境挙動	農業環境に散布される農薬の挙動の基本的考え方とともに、環境挙動と物化性状、分解性/濃縮性の関係、挙動解明のためのRI試験全般について解説する。	12月10日				
	11 農薬の残留分析	RI試験からの環境挙動に基づく実環境での残留の基本的考え方とともに、実環境での残留量の測定方法や残留量の予測について解説する。	12月10日				
	12 ハザード評価のための農薬の環境毒性	環境影響評価のための環境生物に対する毒性試験の基本的考え方とともに、環境生物毒性試験の方法と評価項目について解説する。	12月10日				
	13 リスク評価のための農薬の環境影響評価法	環境影響評価とそれに基づくリスク評価のための基本的考え方とともに、環境中濃度の予測、リスク評価のための段階的アプローチについて解説する。	12月17日				2号館101
	14 農薬の環境影響に関する試験項目と規制	規制に関する基本的考え方とともに、日米欧の農薬規制の現状、規制のための試験項目について解説する。	12月17日				
	15 持続可能な農業体系	地球歴史的な生態系の成り立ちについて解説する。また、農業の発展、農業生態系の特徴、持続可能な農業体系への動きについて解説する。	12月17日				